

＜本郷キャンパス＞
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部／大学院／文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

＜ふじみ野キャンパス＞
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

＜駒込キャンパス＞
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

高校

SSH生徒たちが各大会で大活躍！

ポスター発表で「優等賞」「最優秀賞」

都内女子校で唯一、文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に認定されている本校では、本校教員をはじめ国内外の専門家による高度な科学教育が展開されています。日々の地道な研究の積み重ねが花開き、昨年12月、2つの大会のポスター発表において、「優等賞」「最優秀賞」を受賞しました。

入賞者の3人は、本校と科学教育連携を結ぶタイのプリンス・チュラボン・カレッジ・ベッチャブリー校（PCCP）においても、英語によるポスター発表をしました。

第12回高校生科学技術チャレンジ（SEC2014）「優等賞」

126校から過去最多の221研究の応募があった第12回高校生科学技術チャレンジ（SEC2014）／主催 朝日新聞社、テレビ朝



夢に向かってまい進する長倉さん

日）で、長倉ゆ里さん（3蘭）の「ゴボウとコンニャクの調理における緑化現象の解明と他食品への応用」をテーマとした研究が、ファイナル30に選ばれました。昨年12月14日には、日本科学未来館（江東区青海）において最終審査に臨み、「優等賞」を受賞しました。

長倉「最終選考では敗れましたが、そもそもファイナル30に選ばれたこと自体が驚きで、何度も主催者ホームページを確認してしまいました。昨年、この研究につ



初受賞を喜ぶ小林さん(右)と柳沢さん

いてタイで発表しましたが、とにかく質問の多さにビックリ！それは発表者にとつてうれしいことで、すので、私も多くの質問をできるように見習いたいと思いました。私の夢は、食

タイトルは、「悪魔の薬と奇跡の実による味覚マジックSHOW」。ギムネマ茶とミラクルフルーツに、味覚変化をもたらす効果があることに興味を持ったふたりは研究に着手。甘味を感じにくくするギムネマ酸と、ミラクルフルーツに

「サイエンスキャッスルポスター最優秀賞」

品会社の研究職。その夢がかなう大学に進みたいと考えています

昨年12月20日、大田区産業プラザP10で行われたサイエンスキャッスル2014（主催 教育応援プロジェクト、サイエンスキャッスル実行委員会）で、小林未奈さん（2梅）と柳沢あすかさん（同）が、ポスター発表で「最優秀賞」を受賞しました。

小林「発表時には沢山の人が集まってくれました。大学や中高の先生方からアドバイスをいただいただけではなく、発表を聞いてくださった皆さん全員がこの研究について意見を申し合ってくれました。とても楽しい発表となりました。それにより、改善点や課題が明確になりました」

柳沢「同じ発表をPCCPでもしましたが、タイではミラクルフルーツに馴染みがなく、酸っぱさを甘味に感じさせる効果があることを知って驚いていました。発表を始める前から質問攻め、発表後も質問が絶えず、知っている単語を並べて一生懸命対応しました」

高校 春高バレー大健闘！

春高バレーとして親しまれている第67回全日本バレーボール高等学校選手権大会が、1月5日から東京体育館で開催されました。本校は2年ぶり7回目の出場で、初戦（1月6日）はインターハイ、国体でベスト4入りした強豪・古川学園（宮城）との対戦。

「チーム文京」の実力を余すことなく発揮し、2-0で勝利。試合の解説者・元全日本選手の大林素子さんが



対鹿兒島女子戦で文京学院が強力なアタック手前

はいいもので、この4月からGCI1期生は3年生になります。GCIとはGlobal Career Instituteの略称で、経営学部、外国語学部、人間学部、保健医療技術学部の学生約80名が学ぶ学部横断型プログラムです。

Green Spirits

GCI 2年を終えて

一方、課題はグローバル英語に対する理解は深まったものの、Writingなどの基本スキルへの取り組みを求める意見が多めの学生から出されたことです。

また、本郷キャンパスとふじみ野キャンパスをテレビ会議システムで結んだ遠隔授業は、各学部の学生が一緒に学ぶというメリットはあるものの、一方で講師がいないキャンパスでの緊張感をいかに持続させるかが課題です。

Green Spirits

GCIはまだ始まって2年です。しばらくの間、試行錯誤が必要かと思われま

2年後に1期生がどのような成果を得て卒業しているか楽しみにしています。

GCIセンター長
外国語学部 教授

西村信勝



みると、多くの成果が得られたものの、同時に多くの課題も見えました。

成果のひとつは、アジアへの留学、学外の多くのプロフェッショナルとの交流、グループワークなどを通じてGCI生の積極性が大きく向上したことです。

また、4学部の教員・職員で構成する委員会をGCIプログラム

院生・研究員に感謝しています」と抱負と感謝の気持ちを語りました。

なお、中山担当講師は、平成24年にも同学会で「最優秀論文賞」も受賞されています。

「健康食品管理士認定試験」11名全員合格

保健医療技術学部臨床検査学科の4年生11名が、第18回健康食品管理士認定試験（平成26年11月16日実施）を受験し、全員合格しました。（全国合格率

83.9%）健康食品管理士は、日本食品安全協会が認定する資格で、本学は健康食品管理士養成認定校として認められています。

保健医療技術学部へ入学後、一定の科目を履修することにより、在学中に試験を受験することができます。

学生を指導した飯島史朗教授は、「健康食品管理士は、健康食品等を適正に利用すること、その被害から守ることに指導的役割を担えるアドバイザーとなる資格です」と合格者の活躍に期待しています。

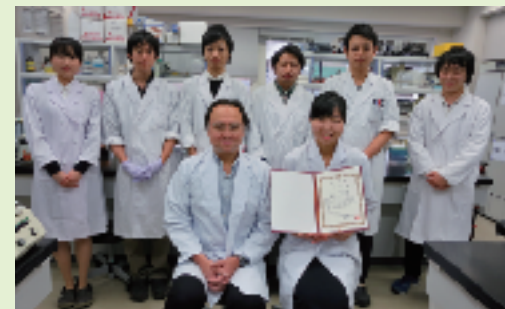
尿蛋白は出てはいけないういイメージがあります。現在、腎臓病の場合にこの蛋白が出なくなる

ことが病気に繋がり、今までの尿蛋白の考え方と違

中山担当講師の研究テーマの蛋白質である「HHPは、

検診で検出できる試薬とは反応しないため、検診では

網羅されていないものですが、健康な人からも沢山出



飯島教授（前列左）と研究室のメンバーに囲まれる中山担当講師（前列右）

そのために、中山担当講師たちはオリジナルの測定法を作りました。これが広く使われるようになると、臨床

検査の現場で活用され、意義が高まると考えて研究を進めています。

「HHP」抗体を作るには動物実験が必要で、そのため中山担当講師は、母校の東京医科歯科大学で実験を行い、抗体を作る細胞を作

りそれを文京学院で細胞培養し、何度も検証を重ねました。「世界的に研究者が限られている分野ですので、

特色を出してあちこちで発表していきたいと思

指導してくださった飯島史朗教授や、生ものである細胞管理のためにお休みを返上して協力してくださった

中高

学園創立90周年

新生、文京学院シンポジウム

～各コースで何を目指すのか～

本校は、常に時代の動きをとらえ、女性が社会で能力を発揮する道を拓くために、教育内容を改革してきました。今年、創立91周年を迎え、中高ともに「サイエンス」「グローバル」「スポーツ」をキーワードに、これまで以上に女性のキャリアを支援する学校に変わろうとしています。それぞれのコースの目指す教育内容を、多くの方々に知っていただくために、昨年10月～11月にかけて駒込キャンパスで3回のシンポジウムを開き、21世紀に女性のキャリアを拓く3つの扉となる基調講演とパネルディスカッションを行いました。本校は、今までの知見をベースにしながら新たな発想を取り込み、21世紀のグローバル社会を生徒自らが築いていく力を育てていきます。

Global Studiesコース／国際教養コース



恒吉教授

『女性グローバルリーダーの育成』を演題に、東京大学大学院教育学研究科の恒吉僚子教授が講演されました。恒吉教授は、日米の学校のフィールドワークを中心に、教育と社会化の国際比較研究、多文化共生と教育、教育とグローバル化などの研究を行ってきました。「日本の学校教育の強さを活かす」「組織の国際化の遅れに対応する」「世界が英語一辺倒になる中で、非英語圏としての日本を活かした戦略的思考」の大切さなどについて話されました。

パネルディスカッションには、山本理夏さん（NPO職員）、坂井菜穂子さん（流通系マーケティング）、山本花琳さん（本校OG。立命館アジア太平洋大学在籍）、山崎愛美さん（3樺。国際ロータリー交換留学生としてアメリカへ留学）が参加。丸山香奈教諭（英語科・本校国際交流主任）がコーディネーターを務め、「グローバル＝英語」「異文化＝海外」ではない、特に異文化理解においては、自分の身近な相手を理解する姿勢、自国の文化や歴史を知ることが大切であることを話し合いました。英語によるコミュニケーション力を基盤として、グローバル社会で活躍する人材を育成する語学力、自国の文化・言語に対する深い理解を前提とした文化発信力を高めることを理念とするコースにふさわしい内容となりました。

Advanced Scienceコース／理数キャリアコース



村上教授

『理系女子の将来性と展望』を演題に、信州大学全学教育機構長・工学博士の村上好成教授が講演。大学の教養教育の流れ、理工系学生的重要度、男女共同参画の推進などの話を通じて、理工系女子研究者は、今まさに注目を集め、その未来は明るいことを力説されました。なお、高分子物性を研究テーマとする村上博士は、本校SSHの運営指導委員長・助言者でもあります。

パネルディスカッションには、村上教授はじめ、本学保健医療技術学部の樋口桂准教授、本校の北野啓子高等部教頭、本校の織田真奈美教諭が参加。河本敏浩先生（社団法人全国学力研究会理事長）がコーディネーターを務め、「理系女子の活躍を支える学校教育～文京学院のSSHがめざすところ～」をテーマに、SSH指定から3年目のこれまでの活動を振り返りました。研究開発課題として、「科学への興味関心を喚起し、科学探究に必要な学力の育成および国際社会で活躍できる科学者を目指す生徒の育成」を掲げ、地域の科学教育の中核拠点として、全教科横断カリキュラムと高大接続教育の構築を図ってきました。生徒たちの活動の様子と成長を伝えることで、本校SSHが目指す教育方針の確かさを再確認できました。

SSHのプログラムをベースに、中高一貫で女性サイエンティストを育てる同コースの理念が明確にされました。

Sports Scienceコース／スポーツ科学コース



内田教授

『スポーツ科学：未来への跳躍』を演題に、早稲田大学スポーツ科学学術院の内田直教授・副学術院長・医学博士が講演されました。スポーツ神経精神医学が専門の内田教授は、スポーツの歴史、トップアスリートの迅速な判断や高い知力、スポーツのグローバル性などについて話されました。

パネルディスカッションには、本校OGの杉田直美さん（在校時、水泳でロサンゼルスオリンピック出場。アジア大会〈インド・韓国〉で金メダル。早稲田大学人間科学部に進学後、ユニバーシアード大会に出場（旧ユーゴスラビア）。

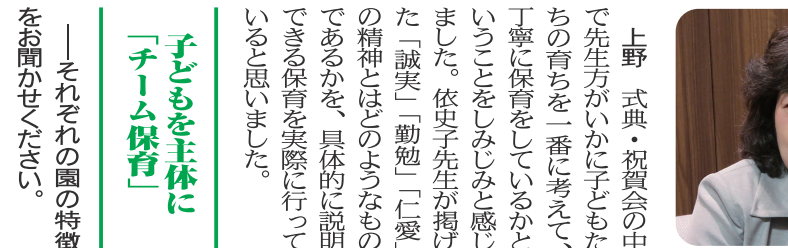
400m・800m・1500m自由形他、元日本記録保持者。現在、日本体育協会公認スポーツ指導員）、長谷川曉子さん（在校時に全国中学校選手権・春高バレー全国大会・全国高校総体で準優勝。青山学院大学経営学部進学後も、エースとして活躍。タイ、セルビアでのユニバーシアード大会に日本代表で出場。NECレッドロケッツに所属し、主将経験）、横田実美さん（在校時、新体操で広島でのインターハイで個人総合優勝。アゼルバイジャン世界選手権に団体メンバーとして初の日本代表。早稲田大学スポーツ科学部に進学後、世界選手権、イオンカップ、全日本選手権で活躍。引退後は、劇団四季に入団。『S-long&dance55steps』『ライオンキング』に出演。現在は、出身の飛行船新体操クラブのコーチ）が参加。沢柳優子教諭（体育科・本校キャリア教育支援部長）がコーディネーターを務め、「スポーツが与えてくれたもの」をタイトルにそれぞれの経験から話を展開。本校在校中に高い競技能力とリーダーシップを身につけ、世界を舞台に活躍したことが、現在の自分を形成していることに触れ、スポーツの素晴らしさについて語りました。「スポーツこそがグローバル」であることを念頭に、スポーツの学びを通し、リーダーシップを持つ人材を育てる同コースの理念が、パネリストを通じて具現化された内容となりました。



園児が伸び伸びと遊ぶ広い園庭のふじみ野幼稚園



後方の座席が自動開閉される最新設備の整った文京幼稚園のホール



益田園長

上野 式典・祝賀会の中で先生方がいかにも子どもの育ちを一番考えて、丁寧な保育をしているかというところを、先生が感じました。依史先生が掲げた「誠実」「勤勉」「仁愛」の精神とはどのようなものであるかを、具体的に説明できる保育を実践に行っていると思いました。

子どもを主体に「チーム保育」——それぞれの園の特徴をお聞かせください。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

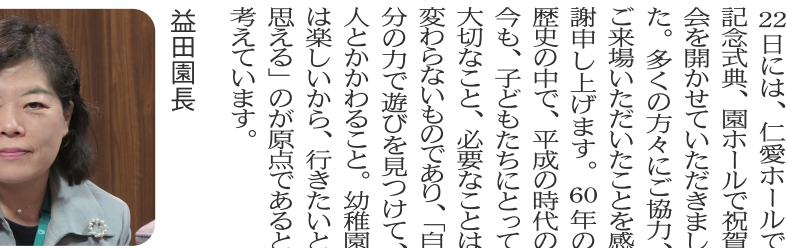
益田 文京幼稚園は、3年間をかけて増設しましたので、子どもたちのために良い環境が整いましたが、それは物的な環境であり、私は本園の特色はやはり「人」であると思っています。「先週の子どもの姿が

益田 幼稚園には沢山の行事がありますので、2園共に若手教員にも仕事を割り振って企画・運営してもらっています。リーダーとなった若手教員を、チーム全体で支えることで、それぞれにグングンと成長しています。

上野 幼稚園とは、人生において種まきをする時期にあたり、また、まきまくその土壌であると思います。そこで何が芽吹くかわからないという意味には、「目には見えないものを育てる

上野 幼稚園は、保護者と教員が「子育ての喜びを共感できる」素晴らしい所であると思います。幼稚園では、泣いてばかりいた子が笑顔で登園できるようになった、何度か練習して逆上りができるようになったなど、子どもの日々の成長を、親と共に喜び合える場であると思います。私たち教員も、そういった子どもの成長をこの目で確認できるからこそ、苦しいことも乗り越えられるのだと思います。

上野 幼稚園とは、人生において種まきをする時期にあたり、また、まきまくその土壌であると思います。そこで何が芽吹くかわからないという意味には、「目には見えないものを育てる



益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

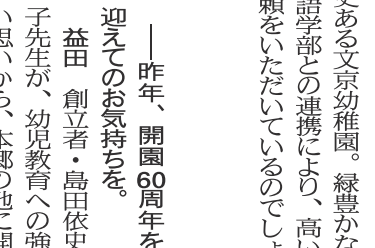
益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。



益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

特集

地域に信頼される文京幼稚園とふじみ野幼稚園

本郷キャンパスに隣接する最新設備を備えた60年の歴史ある文京幼稚園。緑豊かなふじみ野キャンパスに隣接する広い園庭を有するふじみ野幼稚園。これら2つの本学の幼稚園は、人間学部・外国語学部との連携により、高い教育力で、地域の方々に評価を受けています。少子高齢化の中で、ふたつの幼稚園がなぜ、地域から信頼をいただいているのでしょうか。今回は、それぞれの幼稚園の魅力についてお話を伺いました。

座談会出席者は次の方々です。

文京幼稚園 益田園長
上野めぐみ園長補佐
ふじみ野幼稚園 小栗俊之園長
岸田美子園長補佐

— 昨年、開園60周年を迎えてのお気持ちをお願いします。

益田 創立者・島田依史子先生が、幼児教育への強い思いから、本郷の地に開園されて60年。昨年11月22日には、仁愛ホールで記念式典、園ホールで祝賀会を開かせていただきました。多くの方々に協力、ご来場いただいたことを感謝申し上げます。60年の歴史の中で、平成の時代の今も、子どもたちにとって大切なこと、必要なことは変わらないものであり、自分の力で遊びを見つけて、人とかかわること。幼稚園は楽しいから、行きたいと思える」のが原点であると考えています。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。



益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります。「遊びを大切にしている保育」がふじみ野幼稚園の考え方です。

岸 自由遊びの時間が長いというところは、色々な場面で子どもたちが遊んでいるので、教員もそれに対応しています。広範園で様々な遊びが行われていると担任ひとりでは対応しきれないので、先ほどの「チーム保育」が大切になってきます。ふじみ野幼稚園の場合、担任を軸にチームの中で動きが決まっていますが、その部分はきちんと行われていると思います。チーム内での話し合いをするにあたり、チームの構成は、専任教諭・補助教諭・パート教諭と立場が違いますが、週に一度の会議の他、文章で書いて情報を共有し、共通理解を図っています。この方法を始めてからもう10年になりました。文章を読むと、「このように書けば良く伝わるか」をきちんと考慮している感じがします。

益田 幼稚園には沢山の行事がありますので、2園共に若手教員にも仕事を割り振って企画・運営してもらっています。リーダーとなった若手教員を、チーム全体で支えることで、それぞれにグングンと成長しています。

上野 幼稚園とは、人生において種まきをする時期にあたり、また、まきまくその土壌であると思います。そこで何が芽吹くかわからないという意味には、「目には見えないものを育てる

上野 幼稚園は、保護者と教員が「子育ての喜びを共感できる」素晴らしい所であると思います。幼稚園では、泣いてばかりいた子が笑顔で登園できるようになった、何度か練習して逆上りができるようになったなど、子どもの日々の成長を、親と共に喜び合える場であると思います。私たち教員も、そういった子どもの成長をこの目で確認できるからこそ、苦しいことも乗り越えられるのだと思います。

上野 幼稚園とは、人生において種まきをする時期にあたり、また、まきまくその土壌であると思います。そこで何が芽吹くかわからないという意味には、「目には見えないものを育てる



益田園長

益田 開園後、3年目から英語教育に取り組み、このことも一つです。上野 当時、NHKでも取り上げられた聞いたことがあります。言葉は、育過程で身につけていくものですが、日本語・英語というポスターラインで、子どもの力では、子どもが「言葉でコミュニケーションを取りたい」と思える気持ちを持てるのが大切であると思います。そう考えると、60年の歴史の中で試行錯誤を繰り返しながら「英語教育と何かが」をきちんと考えて継続してきたことが本園の力の一つとなっていると考えています。英語活動と呼ぶ保育と運動して行っています。小栗 「子ども主体の保育」は両園とも同じです。その中でふじみ野幼稚園が大切にしている考え方は「知ることも感じることもです。何をどれだけ知っているかが重要な点ではないか」として身についていくことが大切だと思っています。「うっか」な生、みてみて」など、発見したり、驚いたり、納得したり、理解したり、心を動かして身につけていくは、忘れないし、必要な時に使える力になります

中高 SSH(スーパーサイエンスハイスクール) ②

文部科学省から都内女子校初のSSH認定を受けている本校では、生徒たちが国内外の専門家の指導を受けながら、グローバルに学んでいます。

スーパーレクチャー「古生物学への誘い」



François先生(奥左)の講義とステファナ先生の解説

フランスの古生物学のスーパーレクチャーが12月研究者であるDr.Fran-9日、BAL-Studioで行われ、同先生は、世界各の化石の発掘に参加。今回、『第23回東京ミネルショーモンスターアンモナイトの世界特別展(池袋サンシャインシティ文化会館)に発掘化石を出品されたことから本校にお招きし、英語による古生物学特別講義が実現しました。中学1年生も高校生に混じり、熱心に受講。実際の恐竜の骨の化石に触れる体験をした上、本校でSSHを指導するステファナ先生の解説も加わり、わかりやすく興味深い講義となりました。

タイでポスター発表

1月5〜10日まで、本校と理科教育連携を結ぶタイのプリンス・チュラポーン・カレッジ・ペッチャブリー校(PCCP)でサイエンスフェアが開かれ、本校からは9名の生徒が派遣されました。牧野菜美香さん(2梅)と松井優希さん(同)は、「触覚と食欲の関係について」発表(写真)。本校初の海外で



熱心なPCCPの生徒を前に発表

中高 「成人を祝う会」 華やかに

「成人を祝う会」(本校、鏡友会共催)が1月12日、カフェテリアで開かれました。今年は本校卒業の成人120名、教職員と保護者30名、鏡友会(高島宏子会長)などを含め、総勢170名の参加となりました。華やかに着飾った卒業生たちは、佐藤芳孝校長、高石和一人一貫部副校長はじめ懐かしい恩師や仲間との2年ぶりの再会を喜び合いました。思い出話に花を咲かせ



佐藤校長(中央)と高石副校長(右)を囲む卒業生

大学 BICS10周年記念 「1/4の奇跡」上映会開催

地域連携センターBICS10周年を記念して12月6日、ふじみ野キャンパスでドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」本場のこの日から」が上映されました。主催は同センター、後援は同実行委員会、子どもたちを応援する親の会アップルパイ。タイトルの「1/4」とは、何でしょうか? マラリアとの長い闘いの歴史を持つ「弱者の遺伝子」も必要であるという深い意味合いがあります。

思い出を胸に充実の笑顔



の気持ちを表しました。

外国語学部・短期大学同窓会の森山直美会長も英語で挨拶。文京学院校友会の森田喜代子会長からは記念品が贈呈されました。最後に、川邊学長が一人

を教え、あとの30分は留学生が本学の学生に英語を教えるというランゲージ・パートナー制度を初めて採用して、双方から好評でした」と成果を喜びました。

大学 「島田杯」大盛況

第20回「島田杯」英語弁論大会が12月7日、川邊信雄学長出席のもと、本郷キャンパスで行われました。今回は、本学をはじめ、獨協大学、明治大学、同志社大学、東京大学、青山学院大学、上智大学、広島工業大学、横浜国立大学、茨城大学の学生が英語スピーチを競いました。本学からは、選抜を勝ち抜いた豊嶋大吾さん(外国語学部2年)が、「Elephant's Memory」をタイトルに出場。傷ついたゾウが、過酷な労働を課されている現状について訴え、大熱弁をふるいました。



豊嶋さん

他大学の3名のネイティ



全国から英語エキスパートが参集(後列右から2人目が本学の豊嶋さん)

物語は、養護学校教員の山元加津子さんが語る学校の子どもの話。教員対生徒ではなく、「ひとりの人間」として向き合ってきた子どもたちの「珠玉の言葉」を通じて、「一人ひとりの存在」や「在りのままの自分であること」の大切さに触れていきます。さらに、遺伝子学の専門家や博物館理事などの言葉に、「人は奇跡的な存在、すべてのいのちに意味がある」という、宇宙的な視野で感じることが出来ます。子どもたちの感性の素晴らしさや、病気であることの覚悟などを知る時、そののち



同映画上映会実行委員会メンバー

感想が聞かれました。

えた豊嶋さんは、「学内選考時よりも、グッとレベルアップした学生たちとスピーチを競うのは、大変緊張するものでした。自分の思いをスピーチで伝えることはできて、その後の質疑応答で相手の心に食い込む回答がなかなかうまくできず、フリーカンバセーションの重要性も感じました」と振り返りました。